



Desert Wind

● ● 約束のものを得るための戦い ● ●

(ヨシュア1:1-9)

モーセの死後、神は、その後継者としてヨシュアをイスラエルの指導者を選び、そのヨシュアに対し、イスラエルのすべての民と共に立ってヨルダンを渡るように命じられました。この「共に立つ」ということは、パウロの書簡に出てくる「互いに」という概念に似ていますが、私たち教会も、約束のものを得るためには、この「共に立つ」ことが大変重要なことであることを教えられます。つまり教会は、一人だけ、あるいは仲の良い人たちだけで歩むところではなく、共に立ち、互いに協力し合う群れであるべきです。

ところが、この「共に」ということは簡単なことではありません。自分だけ、というほうがどれほど楽か知れません。人との関係が煩わしいと思うことがよくあるものです。教会は、神によって呼び集められた群れですが、一人ひとり肉の弱さを抱えた者なので、色んな意見の違いや衝突があつたりします。しかし、それでも、神は私たちに「共に立つ」ことを命じておられます。なぜなら、それが約束のものを手に入れるための鍵だからです。

神はカナンの地をアブラハムとその子孫に約束されましたが、その地には既に七つの民族が住み着いていたので、そこを手に入れるには、彼らとの戦いを通して勝ち取る必要がありました。同様に、神がイエス・キリストの贖いを通して、救いと共に多くの恵みを私たちに約束しておられますが、私たちは、それを敵である悪魔との戦いを通して勝ち取らなければならないのです。そこで私たちは、そのために三つのことを知っておく必要があります。

①約束のものを知る

ヨシュア記 1:3-4 で、神はヨシュアに、イスラエルの領土がどこからどこまでかを知らせてくださり、命を命じました。そうすれば、その地のどこでも、足を踏み入れ、信仰を持って

戦う所はすべて手に入れることができると約束されたのです。このように神が約束された以上、その約束は必ず成就するのですから、その約束のものが何であるかを知り、勝利の神を見上げて強く雄々しく生きるならば、必ずその約束のものを勝ち取ることができるのです。

②御言葉を離さず行なう

神はヨシュアに、律法をことごとく守って行き、これから離れなければ、彼の行くところどこでも勝利を得ることができると言われました。つまり、神はヨシュアに、いくら戦場で忙しくても聖書を傍らに置いて、聖書をいつも読んで黙想し、聖書の御言葉を守りながら生きるように言われたのです。そうすれば神が共におられ、必ず約束のものを得て栄えることができるというのです。

これは私たちにとっても真理です。御言葉を通して神と親しくなり、神と手を取り、神に近づけば、全てのことが最善へと導かれます。またあらゆる面で繁栄し、栄えることができます。家が繁栄し、子育ても繁栄し、事業も繁栄し、職場でも全てのことが繁栄するのです。

③私たちの戦いの場を知る

最後に、約束のものを得るための戦いの場について考えますが、私たちの戦いの場は一体どこでしょうか。それは、まず私たちの心、また私たちの考えです。悪魔は、私たちの心にゴミを注ぎ込もうとします。例えば、憎しみと、敗北と、落胆のゴミを私たちの心に入れ込もうとします。もし私たちが、これをそのまま受け入れるなら、憎しみのゴミが入れば憎しみ、敗北のゴミが入れば敗北し、落胆のゴミが入れば落胆するのです。ですから、私たちは、心の中に見張りを置いて、悪魔がゴミを私たちの心に注ぎ込めないようにする必要があります。そのためにも、私たちは絶えず御言葉を口ずさみ、御言葉の考えが心の中に満ちるようにしなければなりません。

LVJCC 牧師: 鶴田健次

DREAMS COME TRUE

- ✠ 教会堂の建設
- ✠ 敬老ホームの設立
- ✠ 幼稚園の設立

お祈りのリクエスト

- 日本の家族の救いのために
- 各スモールグループのオikos伝導のために
- 入門者クラスのために (田中兄、愛子姉、Mark 兄、りえ姉)
- 英語部の働きのために
- 小さな子供を持つお母さん方のクラスのため
- 日本にいる堀田兄弟の献身者の学びのため
- 癒しの祈り: 和美姉、みえこ姉、神崎先生の目、倉田一徳さんの脳腫瘍、新井雅之兄の癌、夕紀子姉、美津子姉、かよこ姉、Mary 姉、以津子姉、エナちゃん、Kahoku さん、理恵姉、恵理奈ちゃん

Desert Wind では、ご意見・質問等何でも受け付けております。lvjccnews@lvjcc.com 発行人: 鶴田健次 編集人: 松岡みどり



～ 何よりも神様のために ～

証し: 田上 貴久

今現在、僕は神様のために何か出来ないかと熱心になっています。ゴスペルクワイヤーに参加したり、賛美チームに加わったり、またパワーポイントの奉仕をしています。実は僕がこのように熱心になったのはつい最近の事なのです。それ以前は奉仕どころか何に対してもやる気がなく、また生きがいというものを持たずに生きていました。

僕はここ、ラスベガスに越して来る前はハワイで5年間住んでいました。その頃僕は何故か心が病んでおり引き籠もりがちでした。学校にはちゃんと行っていましたが、学校が終われば寄り道せずに家に帰り、ゲームやパソコンをして無駄な日々を送っていました。そういった他人から干渉されない生活を送っていく内に僕は他人と接するのが苦手になり、喋るにしても上手く喋れずどもったりしました。ハワイでも教会には行っていましたが、なかなか馴染めず、さらに引き籠もりがちになっていました。その教会には若者達向けの聖書勉強会もありましたが勿論僕は行こうとは思わず、参加を拒否していました。僕は他人とまともに接する事が出来ず、また希望も何も持てない自分が嫌でたまりませんでした。それなのに、何か行動を起こして自分を変えようともしませんでした。そんな状態のまま、色々な事情もあり、ラスベガスに引っ越すことになりました。

ラスベガスの教会はハワイの教会の牧師の奥さんから紹介してもらいました。この教会の人達はとてもフレンドリーで、また青年会の存在も知りました。最初は乗り気ではなかったのですが、せっかくならから誘われたのに断るのも悪いので青年会や教会の行事に参加していました。教会の人達と交わっていく内に僕は、どうしてこの人達は生き生きとしているのだろうか、どうして神様を第一と考えていけるのだろうかかと疑問を抱くようになり、また徐々に惹かれていきました。気が付けばゴスペルクワイヤーに参加していたり、自分の心が決まってもいないのに「奉仕、何でもします」と言っていたり、知らない内に行動を起こしていました。するとすぐにパワーポイントを任

され、賛美チームにも加わる事になり、さらにはスキットの話まで登場しました。ゴスペルクワイヤーに参加した際には聖霊に満たされ、何かしたいという気持ちはさらに強まりました。結果それらの奉仕だけに留まらず、僕は神様を賛美するためにギターを始めました。

そうなのです、僕は徐々に変わっていました。今の僕は何かをしようとしている。これは僕自身の力によってではなく、神様によって変えられたのです。また他人とも普通に接する事が出来るようになっていました。そして僕は、ギターは自分を活躍させるという虚栄心によるものではなく、本当に神様のためだけにやっていく事を心に決めました。神様は僕を変えさせ、充実した生活をくださった。何より神様は僕にギターで賛美を捧げる事をお望みでいらっしゃる。現に神様は僕にギターを与えてくださった。故に僕は神様のお望みにお応えし、そして感謝の気持ちを持ってギターで賛美していきたいと思えます。

しかしどんなに神様のために熱心になっても、神様に対する感謝の気持ちが強くなってはいつかどこかで挫折してしまう。鶴田先生が言われるには、それは聖書を学び、神の恵みの有難さを深く味わうことによって、奉仕の動機と力が与えられるとのことでした。実は、僕は幼い頃から母に毎週教会に連れられ、昔から神様のことを知っていましたが、聖書をまともに読んだ事はありませんでした。神様に対する感謝の気持ちを強めるため、また神様の事を深く知るために僕は聖書を読み始めました。聖書を読み始めてからは、僕は神様に対する感謝の気持ちや信仰がさらに強まったと感じています。これをエネルギーにしてギターの練習や奉仕に励んでいます。

『福音のためなら、わたしはどんなことでもします。それは、わたしが福音に共にあずかる者となるためです。』(第一コリント9章23節)

これは今年選んだ僕の聖句です。僕は神様のお望みに応えるクリスチャンになります。またギターで神様に最高の賛美を捧げられるクリスチャン、そして僕が人から影響を受けたように、人に影響を与えられるクリスチャンになりたいと思えます。この証をイエス・キリストの御名によってします。アーメン。

編集室 便り

ずっと晴天が続いていたところ、1月後半から記録的な大雨が1週間以上も断続的に降りました。ベランダから見えるフラミンゴ・ウォッシュは、まるでとうとうと流れる本格的な川の様でした。大粒の雨が降り続く中ノアの大洪水を思い、天候をも支配している主はラスベガスの罪深いことに涙していると思いました。先日鶴田先生が、ラスベガスのリバイバルのために本気で祈る祈りのチームを作ると仰っておられました。罪の街ラスベガスに住んでいる私たちクリスチャンは、神から大きな期待を持って集められた神の戦士に違いない。この罪の街にリバイバルが起こると誰が思うだろう。しかし神は、勝利する事を既に決められている。それを私たちが任されたのだ。激しい雨を見ながらそんな事を思い熱くなった。